暖く見守る仲間達
関東常駐オルグの手記から

第二次全国オルグ団も、去る二日ながらく関東、関西地区に常駐して活躍していたオルグの帰山によつて、全員無事にオルグ活動も終つたことになつた。〃三池の闘いは全国の仲間に支えられている〃と各オルグは口をそろえて、働く仲間たちの階級連帯性に感動して帰山しているが、関東オルグとして常駐していた、上田、松井、西川、山田、片山の各オルグから、現地の情況や支援態勢などについてつぎのような手記を寄せてもらつた。

声援と拍手続く

四山支部　松井　二

三池を一カ月はなれて、まず感じたことは、三池炭鉱労働組合の一員であることを、幸福に思うと同時に、誇りをもつことが出来たことです。それは三池の闘いの偉大さと、その闘いに真向うからとり組んでいるわれわれの勇気に敬意を表し、この闘いを全労働者の闘いとして、支援態勢が着実にかたまりつつあることをこの眼で見このハダでじかに感じたからです

私が一カ月常駐することになつた千葉県は、東京と隣合せであり千葉県から一〇万の人が東京に通勤しているので、一口にいえば東京の衛星都市みたいな処です。しかも県庁に労働部がない。県庁に労働部がない処は、千葉県を含めて全国に二県しかないといわれています。県下の労働情勢は総評、全労、中立と各組織が集つて千葉県労働組合連合協議会（略して県労連）といい、総評系の組合が県評として、一本にまとまつているのとは違つています。したがつて県内で大きい組合といえば官公労でしかなく、民間単産はほとんどが中小労組で、大単産というのは数える程しかありません。この組織の実態から、一般組合員を重点に総評系、全労系、中立系を問わず、農村青年、母の会などとあらゆる集会に出席し、三池の実情を訴え理解を深めたなかで、中立系のある組合では即座にカンパを決定し、かつ陣中見舞まで手渡してくれました。

ある私鉄の臨時大会に行つたとき、代議士、県会議員、上部団体の役員の挨拶について、三池炭鉱労働組合からのオルグとの紹介があると、出席者の中から〃頑張れ〃との声援と拍手がおこる。代議士諸公より下手な私の挨拶が終ると、やはり〃しつかりやれ〃と声援と拍手が一きわ高く続く。これは労働者としての連帯意識がない限り、このような情景にはならないはずです。千葉県の電車の一運転手に、九州の大牟田にある三池炭鉱労働組合といつてもまず大牟田というのは、九州のどこにあるのかと思うのが当然であつて、そこの炭鉱労働者が首切り反対の闘いをしているので、年末に一〇〇円の カンパ、一月から毎月五〇円宛いつ終るかわからないということでは、そう簡単に理解できるものではない。それが出来るところに労働者としての有難さを、つくづく感じさせられました

母の会の集りで、二百数十日の苦しい闘いを続けているメトロ交通労組員の奥さんの、生活の苦しさ、あるいは九十九里ガ浜の漁民の生活の実態（米軍の実弾射撃のため、漁が出来なくなつて）一日七〇円の内職の手間賃が、もう一〇円でもいいから上らないだろうかと、訴えられるのを耳にするとき、お座なりのなぐさめをいうべきでなく、これをすくうのは赤い羽根や、義援金ではない。それはわれわれ労働者が、まず団結することからはじまると思います。

千葉県の社会党が大きく割れようとしているとき、労働組合は、政党の離合集散を組合に持込むべきではなく、県労連の「統一と団結」をまもるべきであるとして、そのために全精力を集中しています。千葉県の労働者は労働組合が分裂することが、如何におそろしいものであるかを知つています。県労連の事務局次長は総同盟出身の人でしたが、三池の闘いは全労働者の闘いであるといつて、オルグの行動日程をつくり、各地区労に行つては、必ず集会を開いて三池の闘いの実情を聞くように努力してくれました。

私は神奈川県に常駐オルグとして張りつけられました。労働者総数七十五万、京浜重工業地帯の中心である鋼管川崎製鉄や鶴見製鉄、鶴見造船、横浜造船、東芝電機、化学系工場などが目白押しに立ちならび、夜も昼も列をなして原料資材・製品などをはこぶトラックが走り、なかなか活気があるところです。神奈川で無いのは炭鉱だけといわれています。

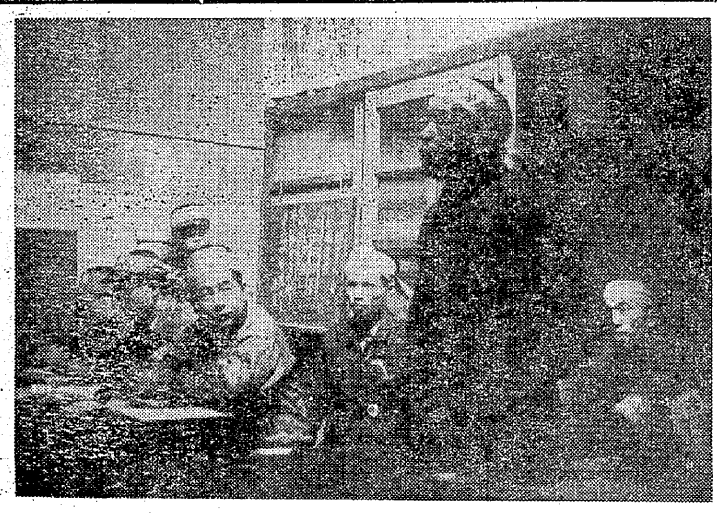
私が直接あつて話した労働者は約七千名くらいです。巡つた組合数は七十組合、全体から見れば非常に少いが県評からだしている機関紙にも三池闘争の実態を掲載してもらい、私の写真入りで三池からオルグがきているから活用して欲しいと記事がでました。昨年来三池へオルグとして来山されたひとたちが各単組の機関紙に三池闘争の実情報告をだしており、ほとんどみんなが三池闘争の意義を理解しています。カンパについても総評系はもちろん中立系の電気労連などでも、近日中にカンパをまとめるという状態でした。労金への定期預金にしても着実に上昇しており、二月末で神奈川労金で三千八百万を突破いたしました。どこにについても「三池から来ましたか、大変ですネ、頑張つて下さい三池が負けたら次は僕たちがやられますからネ」といたわり、励ましてくれます。三池は孤立していない、それどころかますます支援態勢はつよまつています。三池が分裂でもしたら、三池の不幸であるばかりか、全国の仲間を裏切ることだと思います。

神奈川で印象的だつたことは、神奈川ハイタク労組という組合員千名、三十からの支部で組織されている乗用車の運転手組合があります。滝の川支部では、組合をつくり職場要求を出したところ経営者が暴力団をやとつて組合幹部に重傷を負わせ、組合ぶつつぶしをはかつてきました。また栗山支部でも組合をつくり、賃上げ要求をしたところ、社長は会社を私鉄の会社に売り飛ばして逃亡するなど日経連の指導による組合否定の攻撃と対決して激しく、しかも長期にねばり強く闘かつています。私は幾つかのハイタク支部を巡り親しく話しあいましたが、彼等は資本家の本質を知り、闘かつているために、三池闘争にも深い理解と関心をしめし、彼ら自身非常に苦しいのにカンパなどしてくれました。また組織をつよくするために真剣に学習に取り組んでおり、神奈川の労働運動はハイタク労組から発展するんではないかと思いました。そのほかメトロ交通、三和電機、神奈川印刷労組など中小企業の組合が長期にわたる闘かいを続けているのが特徴的でした。

鋼管川崎製鉄は組合員一万三千名で日本の心臓部にも当る重工業の中心ですが、ここの主婦たちと三日間にわたつて約三十人とあいました。川鉄ではちようど春闘で二千円の賃上げと退職金引上げの闘争を組むための組合懇談がなされていました。

主婦たちは「川鉄はつまらないわ、いつも負けてばかりいる。父ちやんは家に帰つても組合の話は何にも教えぬし、聞くとうるさいというので困つちやうわ」などの意見が出されました。私は「主婦の組織を作りなさいよ、そしたら組合も強くなるし、父ちやんはいやでも組合の話をするようになりますよ」といつてきました。三池闘争の話をすると、資本家はひどいネ、とともに怒つてくれました

関東オルグを終つて三池にかえつたいまも私の胸には「神奈川と三池に距離がなくなつた」といつてくれた、神奈川県評の事務局長の言葉が胸に残つています。



オルグ活動中の片山氏（右端立てる人）

不安もケシとぶ

三川支部　西川米生

私は関東常駐オルグとして、一月二十七日より一カ月間東京に駐在し、都下の各組合をまわつて二月二十六日に帰山しました。

前回のオルグと違つて、組合の正式機関（委員会）よりなるべく下部の組合員の方々とお話しできるよう、懇談会、活動者会議などに顔をだしてきました。

上京前、私自身、三池闘争支援だ、カンパだといつても、果してどんなものだろうと、東京の組合の理解の仕方について一まつの不安をもつていました。しかし、実際行つてみて、それが全くの杞憂であることがわかりました。

国公、地公、民間の大単産、中小労組いづれの組合もオルグ受入れに万全の配慮がなされ、三池の各支部でも尋ねるような気持でした。この点、私たちもオルグ受入れについてもつともつと検討の余地があるようです。

その中の一つ二つを拾つてみましよう。

全国一般合同労働組合東京地方連合の春闘討論集会では、春闘をいかに闘いぬくかということで、各単組の生活実態の報告がなされた。

また、全国損害保険労働組合の中央委員会総決起大会に参加しましたが、ビルの中のホワイカラーの組合で、率直にいつて或いはという危ぐを持つていましたが、入つてみると全くの違いで、実情報告の時間も一時間もさいてもらいました。

退庁、退社後の区労協単位の平民共闘会議、青婦協会議などには三池のオルグ廻せの声があちこちからあつて、同時刻の会議には出席を断るのに一苦労しました。また、会議の中で職場闘争、三池の坑内条件などにふれると、三池の闘いの本質は充分理解しているから、そんなものは不用だという意見が出されました。

また場内カンパが提案され、三千九百余円をカンパしてもらいました。いざビルをでようとした時、女子組合員二人が追つてみえて小さなお金をもつていなかつたのでくづしてきたといわれ、二百五十円（五十円五枚）を出されたときは、本当に有難いという気持で一杯で、闘いはいまや全労働者のものであることをしみじみ感じました。

また、全国の仲間たちに職場や地域で三池の闘争状況を話合い、闘争の認識を深め、同志的交流の成果を得たことを心からよろこんでおります。

あるときは夜明けの三時ごろまで真剣に討議をし、組織の形態や炭婦協の活動状況を、ねむいのも忘れてみんな耳をかたむけ、三池の現在までの歴史的な足あとをつぎからつぎへと質問をしてくれるし、同じ立場の働く仲間の心と心が交流しあい、三池の闘争は全国の仲間の闘いとなつてきたような感じがします。

会社もいろいろと宣伝をしていますが、私たちがここにきまして一番感じたことは、三池の闘争に対する支配権力の介入や組織分裂の意図が、日経連を中心とした一連の組合ぶつつぶしの政策が、至るところに系統的に実施されていることです。

埼玉県評を中心とした各企業の仲間たちは、なぜ三池はこんなに強く闘えるようになつたのか、学習活動はどのようにされているのか、職場闘争や生活対策はどう企画され、どう実施されているのかと、つぎからつぎへ話はつきない状態です。

埼玉県下には中小企業の組合がたくさんありますが、人数は五十名から三十名程度の組織もあり、いまだに昨年の十月ごろから年越しの争議をつづけている熊谷東洋印刷や川越常用支部や大室木工支部を合せて、九組合が闘争をつづけています。資金の面についても不自由しながら一部の人たちの行商や家内作業などをみんなで話合つて、利益金のなかから闘争資金や指導者の生活費を分け合いともに助け合い、闘争が勝利に終るまでガンバるとはりきつております

私も熊谷大室木工に入つて、現地の組合員や家族の人たちと話合い、学ぶことがたくさんありました。また、家族に闘争本部を設けている状態は、三池の地域組織となんら違いない状況です。

私は子供におとうさんたちの闘いについてたずねてみたのですがつぎのように聞いて私に送つてくれました。大室木工ストについてという六年生武部美智子さんの手記です。

「大室のストのことを先生が聞くと、私は今まで仕上場の人がかんなでけずつて机の板をつくつていたが、こんどから新らしい機械を会社が入れて、仕上場の人の首を切つて中卒の人をやとい、安いお金を使つてベニヤ板に四角にわくをはめて、こつぱをのつけてつぶしてどうかし、それを売るほか、組合をつぶすため会社が仕組んでいるので、そのためお父さんたちがストをするのです」と答えました。

私はこれを読んで感激の涙が出ました。子供心にも合理化を理解し、低賃金による労働強化と、資本家の搾取にたいする反抗を示していることをこれは物語つています。他にも実例がたくさんありますが省略します。それに、第一組合と第二組合との対決は、文章に書き表わすことのできないほど深刻なものがあります。

県下の仲間たちは、三池の闘争を見つめています。二月二十三日の安保改定阻止の統一行動にたいしては、炭労三井三池の闘いと県下の中小企業の闘争支援を決起大会のスローガンとして採択し、県下三個所で大行進をやり気勢をあげました。県下八万の労働者の中心となつている金属の仲間や各単産の同志は、三池の仲間と首切り白紙撤回までガンバつてくれと握手をしてくれました。

総評大会の決定にしたがつて炭労闘争に勝ち抜くことは安保を阻止し、全労働者の合理化をはねかえすことだと、各単産で労金カンパについて集約がされています。

私は全国の仲間が、三池労組の闘いに階級的連帯性で共闘を理解し、春闘を中心とした賃闘の中で総評の闘いの波に包がんされ、最後の勝利まで闘いつづけることを誓い、地域における組織強化を充実し、敵との最後の対決を決意して以上のように状況を簡単にまとめ、帰山の報告にかえます。

神奈川と三池の距離がなくなつた

宮浦支部　上田義光

みんなが三池の闘いを見つめている

港務支部　片山市男

関東常駐オルグとして一月二十七日大牟田を出発し、総評に集結しました。総評で各県割振りをされ、私は二十八日埼玉県評に行きたちにオルグ活動を開始することになりました。

各単産の働く仲間たちに職場や地域で三池の闘争状況を話合い、闘争の認識を深め、同志的交流の成果を得たことを心からよろこんでおります。

あるときは夜明けの三時ごろまで真剣に討議をし、組織の形態や炭婦協の活動状況を、ねむいのも忘れてみんな耳をかたむけ、三池の現在までの歴史的な足あとをつぎからつぎへと質問をしてくれるし、同じ立場の働く仲間の心と心が交流しあい、三池の闘争は全国の仲間の闘いとなつてきたような感じがします。

会社もいろいろと宣伝をしていますが、私たちがここにきまして一番感じたことは、三池の闘争に対する支配権力の介入や組織分裂の意図が、日経連を中心とした一連の組合ぶつつぶしの政策が、至るところに系統的に実施されていることです。

埼玉県評を中心とした各企業の仲間たちは、なぜ三池はこんなに強く闘えるようになつたのか、学習活動はどのようにされているのか、職場闘争や生活対策はどう企画され、どう実施されているのかと、つぎからつぎへ話はつきない状態です。

【ときのことば】

安保特別委

〃安保国会〃といわれるこの国会で、新安保を審議するために設けられたのが安保条約特別委員会。社会党は黒田寿男、岡田春男、松本七郎、戸叶里子、飛鳥田一男、石橋政嗣、森島守人、成田知巳、勝間田清一氏らのベストメンバーをよりすぐり、徹底的審議に備えている。このメンバーを聞いて岸首相は思わずいやアな顔をしたという。衆参両院に設けられている